

# 看護学生におけるストレスによる学習への影響

寺田 裕樹<sup>1</sup>, 成田 有吾<sup>2</sup>, 久田雅紀子<sup>2</sup>, 種田ゆかり<sup>2</sup>, 今井 奈妙<sup>2</sup>

## Effects of stress on learning motivation of student nurses

Yuki TERADA, Yugo NARITA, Akiko HISADA, Yukari TANEDA and Nami IMAI

### Abstract

This study surveyed effects of stress on learning motivation of 82 student-nurses at 4<sup>th</sup> grade by a questionnaire including a learning motivation scale (Kasori T, 2009).

The result suggested following 5 points;

- 1) Positive respondents (who said “Yes”) on 7 out of 10 items concerning concentration and its endurance showed higher stress level than negative respondents (who said “No”) did.
- 2) Negative respondents on 2 out of 5 items concerning self-efficacy and its improving motivation showed higher stress level than positive respondents did.
- 3) No relationship between learning motivation and stress levels appeared in 4 stress factors.
- 4) Students who answered as they had tended to be late or absent seemed to have much stress and negative responses at 3 items concerning active factors on learning at a class.
- 5) Tendency of less late or absence seemed to relate each item of learning desire scales significant relation between seven items.

In conclusion, [concentration and its endurance] and [self-efficacy and its improving motivation] may concern the stress of the student nurses.

**Key Words:** nursing school, student, learning motivation, stress

## I. はじめに

厚生労働省の全国の12歳以上の世帯員を対象としたストレス調査によると、最近1カ月間でのストレスは「大いにある」11.8%、「多少ある」42.4%で、2人に1人はなんらかのストレスを感じて生活している(厚生労働省大臣官房統計情報部 2002)。12歳以上の男女について、日常生活での悩みやストレスの状況は、「ある」48.2%、「ない」45.6%と報告されている(厚生労働省 2009)。

大学生とストレスに関する研究では、大学生のストレスレベルは高いと言われている(山田 2003)。さらに、看護学生のストレスは、大学への進学による環境の変化や人間関係、臨地実習や国家試験など特有のストレスが存在し、学年が上がるにつれてストレス

度も高くなることや学年により特異なストレスフルな出来事が存在することが報告されている(市丸ら 2001)。一方、大学生と学習意欲や態度に関して、出席率、勉強へ興味、問題の掘り下げ方など学業に対する取り組みが大学受験前に比べて低下しているが、スポーツや趣味など学業以外のことには熱中する学生も少なくない(溝上 1996)。また、大学生の学習意欲の低さは、中高生のように進学や就職のためによりよい成績を求め、学業成績への関心が大学生活では相対的に低下すること、あるいは講義の中に大学で学ぶ意味や目的がはっきり見つからないことが原因と言われている(梶谷ら 1997)。看護学生については国家試験が控えているため他の大学生よりは目標が明確に存在する。しかし、看護学生の学習意欲も4年制大学では短期大学や専門学校の学生と比較すると低いとの報告がある

1 愛知県厚生連安城厚生病院看護部

2 三重大学医学部看護学科基礎看護学講座

(永嶋 2002). 一般大学生の学習意欲に関する研究のうち、加曾利 (2009) は 24 項目の調査票を用い、「独居生の栄養バランスを欠いた食事には、ストレスや社会的活動による時間的制限などの要因があることが考えられる」「大学生の食行動が学習意欲に及ぼす影響を調べ、栄養バランスは学習意欲の『集中力・持続力』『授業に対する真面目さ』に強く影響し、食行動の健全さは学習意欲の『自己向上志向』『授業に対する積極性』に強く影響する」と報告している。

## II. 目的

看護学生の学習意欲とストレスの影響に焦点をあてた報告は乏しく、今回、看護学生の感じているストレスと授業・学習態度への影響を検討するため以下の調査を実施した。

## III. 方法

1. 対象：M 大学看護学科 4 年生 83 名 (男子 3 名、女子 80 名)。

2. 調査時期：平成 21 年 9 月 24 日  
4 年生全員が集合する在宅看護実習報告会の際に配布し、報告会終了後に回収した。

3. 調査方法：ストレス度に関する項目と学習意欲に関して、加曾利の調査票を用いた。ストレス度に関しては 1~10 の 10 段階のスケールを数値スケールとして使用した。学習意欲に関する項目に関しては、加曾利 (2008) の予備調査によって作成された [第 1 因子：集中力・持続力因子]、[第 2 因子：自己向上因子]、[第 3 因子：授業に対する積極性因子]、[第 4 因子：授業に対する真面目さ因子] の 4 因子 24 項目から構

表 1 アンケート用紙

ストレス度																		
今のストレス度を10段階で表すと、いくつですか。当てはまる数字に○を付けてください。																		
1	<	2	<	3	<	4	<	5	<	6	<	7	<	8	<	9	<	10
学習に関して																		
＜集中力・持続力因子＞																		
1. 授業中、なんとなく落ち着かない											はい・いいえ							
2. 授業中、集中力が続かない											はい・いいえ							
3. 授業中、あまり頭が働かない											はい・いいえ							
4. 授業中、身体がだるい											はい・いいえ							
5. 悩みごとがあり、授業に集中できない											はい・いいえ							
6. 授業中、すぐ疲れる											はい・いいえ							
7. 体調が良くないので、授業に集中できない											はい・いいえ							
8. 授業中、ぼんやりしている											はい・いいえ							
9. 授業中、考え事をしていることが多い											はい・いいえ							
10. 授業中、なぜかイライラしている											はい・いいえ							
今のストレス度より高いと感じる時、上記の回答は変わりますか。											はい・いいえ							
＜自己向上因子＞																		
1. 大学で多くの知識や技術を身につけたい											はい・いいえ							
2. 学ぶことで、自分を向上させたいと考えている											はい・いいえ							
3. 興味がある授業には積極的に取り組む											はい・いいえ							
4. 新しいことを学ぶことが好きだ											はい・いいえ							
5. 大学で学ぶことで、視野を広げたいと思う											はい・いいえ							
今のストレス度より高いと感じる時、上記の回答は変わりますか。											はい・いいえ							
＜授業に対する積極性因子＞																		
1. 新しく学んだ事柄について、自分なりに意見がもてる											はい・いいえ							
2. 分からないことは、先生に質問する											はい・いいえ							
3. 分からなかったことは、そのままにしない											はい・いいえ							
4. 講義に関連する図書を読む											はい・いいえ							
5. 授業で習った事柄について、友人と議論する											はい・いいえ							
今のストレス度より高いと感じる時、上記の回答は変わりますか。											はい・いいえ							
＜授業に対する真面目さ因子＞																		
1. 授業中はしっかりノートをとる											はい・いいえ							
2. 遅刻・欠席が多い											はい・いいえ							
3. ノートをとる元気がない											はい・いいえ							
4. 学業には真面目に取り組んでいる											はい・いいえ							
今のストレス度より高いと感じる時、上記の回答は変わりますか。											はい・いいえ							

成される学習意欲尺度に、「今よりストレス度が高いと感じた時に、回答が変化するか」という1項目を追加したものを使用した。すべて2件法（「はい」「いいえ」）での回答項目で構成されている。（表1）

4. 統計学的処理：ストレス度及び各項目において等分散のためのルビーンンの検定、各項目、「はい」・「いいえ」2群間でのストレス度値に対しt検定を行った。有意水準5%で、群間平均値の有意差の見られた項目は「はい」・「いいえ」の判断がストレス度値に反映されているとみなし、質問項目ごとの「はい」・「いいえ」の出現割合を項目間の関連を示唆するものとして、ストレス度値差異を有する項目間での $\chi^2$ 検定（有意水準5%）を行った。統計学的処理パッケージはSPSS Statistics 17.0（SPSS JAPAN Inc, 日本, 2009）を使用した。

#### IV. 倫理的配慮

無記名式の質問用紙を用い、調査への参加・不参加は各自の自由意思であることを伝えた上で依頼した。調査票への記入をもって調査への同意とみなした。調査結果は直ちに匿名で数値入力し、個人が特定されることはない。研究終了後に調査票をシュレッダーにて処理、廃棄した。

#### V. 結果

平成21年9月24日の在宅看護実習報告会にて、4年生83名のうち出席した82名（男子3名、女子79名）に調査票を配布し、報告会終了後に79部を回収した（回収率：96.3%）。未回答の項目は検定の際、欠損値として扱った。すべての項目に回答していたものは72部であった。

表2-1 ストレス度と＜集中力・持続力因子＞のt検定の結果

項目	ストレス度の平均値	n	標準偏差	p値	t値	自由度
授業中、なんとなく 落ち着かない	はい	6.00	36	1.656	0.025	2.2877
	いいえ	5.05	41	1.949		
授業中、集中力が 続かない	はい	5.72	58	1.852	0.058	1.9168
	いいえ	4.79	19	1.782		
授業中、あまり頭が 働かない	はい	5.82	56	1.759	0.011	2.6046
	いいえ	4.62	21	1.910		
授業中、身体がだる い	はい	6.14	36	1.710	0.004	2.979
	いいえ	4.93	41	1.836		
悩み事があり、 授業に集中できない	はい	6.74	19	1.522	0.001	3.5945
	いいえ	5.09	58	1.799		
集中力・ 持続力因子 授業中、すぐ疲れる	はい	5.91	35	2.005	0.071	1.829
	いいえ	5.14	42	1.690		
体調が良くないので、 授業に集中でき	はい	6.78	9	1.563	0.027	1.5957
	いいえ	5.32	68	1.848		
授業中、ぼんやり している	はい	5.75	61	1.832	0.016	2.4603
	いいえ	4.50	16	1.713		
授業中、考え事を していることが多い	はい	5.77	53	1.804	0.050	1.9741
	いいえ	4.88	24	1.895		
授業中、なぜか イライラしている	はい	7.29	7	1.254	0.007	2.7892
	いいえ	5.31	70	1.830		
変化	はい	5.49	65	1.863	0.866	0.173
	いいえ	5.60	10	1.955		

表2-2 ストレス度と＜自己向上因子＞のt検定の結果

項目	ストレス度の平均値	n	標準偏差	p値	t値	自由度
大学で多くの知識や技術 を身につけたい	はい	5.46	70	1.893	0.592	0.5377
	いいえ	5.86	7	1.676		
学ぶことで、自分を向上 させたいと考えている	はい	5.25	65	1.846	0.006	2.8126
	いいえ	6.83	12	1.403		
自己向上 因子 興味がある授業には積極 的に取り組む	はい	5.49	73	1.872	0.994	0.0104
	いいえ	5.50	4	2.082		
新しいことを学ぶことが 好きだ	はい	5.27	64	1.871	0.017	2.4521
	いいえ	6.62	13	1.446		
大学で学ぶことで、視野 を広げたいと思う	はい	5.37	65	1.816	0.176	1.3708
	いいえ	6.17	12	2.082		
変化	はい	5.56	39	2.010	0.621	0.4901
	いいえ	5.35	37	1.703		

表 2-3 ストレス度と＜授業に対する積極性因子＞の t 検定の結果

項目		ストレス度の平均値	n	標準偏差	p値	t 値	自由度
授業に対する 積極性因子	新しく学んだ事柄について、自分なりに意見を持って	はい	5.32	38	1.741	0.414	0.8203
		いいえ	5.67	39	1.991		
	わからないことは、先生に質問する	はい	5.04	28	2.027	0.104	1.6453
		いいえ	5.76	49	1.738		
	わからなかったことは、そのままにしない	はい	5.76	25	1.763	0.414	0.8215
		いいえ	5.38	50	1.947		
	講義に関する図書を読む	はい	5.38	8	1.685	0.851	0.1851
		いいえ	5.51	69	1.899		
	授業で習った事柄について、友人と議論する	はい	5.47	19	2.270	0.972	0.0399
		いいえ	5.49	57	1.754		
	変化	はい	5.64	25	1.846	0.636	0.4813
		いいえ	5.42	52	1.893		

表 2-4 ストレス度と＜授業に対する真面目さ因子＞

項目		ストレス度の平均値	n	標準偏差	p値	t 値	自由度
授業に対する 真面目さ因子	授業中はしっかりノートを取る	はい	5.42	33	1.696	0.780	0.3004
		いいえ	5.55	44	2.005		
	遅刻・欠席が多い	はい	6.38	21	1.857	<b>0.010</b>	2.6518
		いいえ	5.16	56	1.776		
	ノートを取る元気がない	はい	5.95	19	2.198	0.225	1.2391
		いいえ	5.34	58	1.743		
	学業には真面目に取り組んでい	はい	5.62	37	1.800	0.546	0.6002
		いいえ	5.36	39	1.967		
	変化	はい	5.72	43	1.777	0.232	1.1922
		いいえ	5.21	34	1.966		

### 1. ストレス度と学習意欲尺度の各項目との比較

ストレス度と授業・学習に対する態度 4 因子 24 項目と改編 4 項目の結果を表 2-1～2-4 に示した。

学習意欲尺度の [集中力・持続力因子] の項目では、10 項目中「授業中、なんとなく落ち着かない」「授業中、あまり頭が働かない」「授業中、身体がだるい」「悩み事があり、授業に集中できない」「体調がよくないので、授業に集中できない」「授業中、ぼんやりしている」「授業中、なぜかイライラしている」の 7 項目において、「はい」回答者群ではストレス度の平均値が有意に高かった。[自己向上因子] では、5 項目中「学ぶことで、自分を向上させたいと考えている」、「新しいことを学ぶことが好きだ」の 2 項目において、「いいえ」回答者群でストレス度の平均値が有意に高かった。また、[自己向上因子] では、改編項目を除く各質問において「はい」回答者が 80% 以上いた。[授業に対する積極性因子] の項目では、すべての項目において、「はい」・「いいえ」間にストレス度の平均値には差を認めなかった。[授業に対する真面目さ因子] の項目では、「遅刻・欠席が多い」の項目で、「はい」回答者はストレス度の平均値が高かった。改編した項目「今のスト

レス度より高いと感じる時、上記の回答は変わりますか。」に関してはすべてにおいて有意差は見られなかったが、[集中力・持続力因子] では、ストレス度が高いと感じた時に回答が変化するというものが 86.6% を占めた。

### 2. 「遅刻・欠席が多い」ことと学習意欲尺度の各項目との検討

「遅刻・欠席が多い」と他項目との関連を表 3-1～3-4 に示した。学習意欲と負の関係を有すると思われる因子として、[集中力・持続力因子] : 「悩み事があり、授業に集中できない」「授業中、ぼんやりしている」「授業中、考え事をしていることが多い」「授業中、なぜかイライラしている」の 4 項目、[授業に対する真面目さ因子] : 「ノートを取る元気がない」「学業には真面目に取り組んでいる」の 2 項目、正の関係を示唆する因子として、[自己向上因子] : 「大学で多くの知識や技術を身につけたい」「新しいことを学ぶことが好きだ」「大学で学ぶことで、視野を広げたい」の 3 項目に有意な関係が示された。なお、[授業に対する積極性因子] の項目では、すべての項目で有意な関係は認められなかった。

表 3-1 「遅刻・欠席が多い」と集中力・持続力因子>の  $\chi^2$  検定の結果

項目	遅刻・欠席が多い〔度数(期待度)〕		$\chi^2$ 値	p値	
	はい	いいえ			
授業中、なんとなく 落ち着かない	はい	14 (10.3)	23 (26.7)	3.457	0.063
	いいえ	8 (11.7)	34 (30.3)		
授業中、集中力が 続かない	はい	18 (16.4)	41 (42.6)	0.821	0.365
	いいえ	4 (5.6)	16 (14.4)		
授業中、あまり 頭が働かない	はい	19 (16.2)	39 (41.8)	2.618	0.106
	いいえ	3 (5.8)	18 (15.2)		
授業中、身体がだるい	はい	12 (10.0)	24 (26.0)	0.990	0.320
	いいえ	10 (12.0)	33 (31.0)		
悩み事があり、 授業に集中できない	はい	9 (5.3)	10 (13.7)	4.744	<b>0.029</b>
	いいえ	13 (16.3)	47 (43.3)		
授業中、すぐ疲れる	はい	10 (9.7)	25 (25.3)	0.016	0.898
	いいえ	12 (12.3)	32 (31.7)		
体調が良くないので、 授業に集中できない	はい	4 (2.5)	5 (6.5)	1.392	0.238
	いいえ	18 (19.5)	52 (50.5)		
授業中、ぼんやり している	はい	21 (17.5)	42 (45.5)	4.658	<b>0.031</b>
	いいえ	1 (4.5)	15 (11.5)		
授業中、考え事を していることが多い	はい	20 (15.0)	34 (39.0)	7.171	<b>0.007</b>
	いいえ	2 (7.0)	23 (18.0)		
授業中、なぜか イライラしている	はい	5 (1.9)	2 (5.1)	7.260	<b>0.007</b>
	いいえ	17 (20.1)	55 (51.9)		

表 3-2 「遅刻・欠席が多い」と自己向上因子>の  $\chi^2$  検定の結果

項目	遅刻・欠席が多い〔度数(期待度)〕		$\chi^2$ 値	p値	
	はい	いいえ			
大学で多くの知識や 技術を身につけたい	はい	17 (20.1)	55 (51.9)	7.260	<b>0.007</b>
	いいえ	5 (1.9)	2 (5.1)		
学ぶことで、自分を 向上させたいと考えてい	はい	16 (18.7)	51 (48.3)	3.456	0.063
	いいえ	6 (3.3)	6 (8.7)		
興味がある授業には 積極的に取り組む	はい	22 (20.9)	53 (54.1)	1.626	0.202
	いいえ	0 (1.1)	4 (2.9)		
新しいことを 学ぶことが好きだ	はい	15 (18.4)	51 (47.6)	5.234	<b>0.022</b>
	いいえ	7 (3.6)	6 (9.4)		
大学で学ぶことで、 視野を広げたい	はい	15 (18.7)	52 (48.3)	6.544	<b>0.011</b>
	いいえ	7 (3.3)	5 (8.7)		

表 3-3 「遅刻・欠席が多い」と授業に対する積極性因子>の  $\chi^2$  検定の結果

項目	遅刻・欠席が多い〔度数(期待度)〕		$\chi^2$ 値	p値	
	はい	いいえ			
新しく学んだ事柄につい て、自分なりに意見を持て	はい	10 (11.1)	30 (28.9)	0.327	0.567
	いいえ	12 (10.9)	27 (28.1)		
わからないことは、先生に 質問する	はい	7 (7.8)	21 (20.2)	0.175	0.676
	いいえ	15 (14.2)	36 (36.8)		
わからなかったことは、 そのままにしない	はい	5 (6.8)	20 (18.2)	0.987	0.320
	いいえ	16 (14.2)	36 (37.8)		
講義に関連する図書を読む	はい	2 (2.5)	7 (6.5)	0.160	0.689
	いいえ	20 (19.5)	50 (50.5)		
授業で習った事柄に ついて、友人と議論する	はい	7 (5.1)	12 (13.9)	1.256	0.262
	いいえ	14 (15.9)	45 (43.1)		

表3-4 「遅刻・欠席が多い」とく授業に対する真面目さ因子>の  $\chi^2$  検定の結果

項目	遅刻・欠席が多い〔度数(期待度)〕		$\chi^2$ 値	p値
	はい	いいえ		
授業中はノートを しっかり取る	はい 7 (9.5)	いいえ 27 (24.5)	1.566	0.211
	いいえ 15 (12.5)	はい 30 (32.5)		
ノートを取る 元気がない	はい 11 (5.3)	いいえ 8 (13.7)	11.240	<b>0.001</b>
	いいえ 11 (16.7)	はい 49 (43.3)		
学業には真面目に 取り組んでいる	はい 5 (10.2)	いいえ 33 (27.8)	7.136	<b>0.008</b>
	いいえ 16 (10.8)	はい 24 (29.2)		

### 3. その他の学習意欲尺度の項目間の検討

「遅刻・欠席が多い」に関連する項目間での検討結果を表4-1~4-7に示した。1)「悩み事があり、授業に集中できない」と「授業中、考え事をしてることが多い」「授業中、なぜかイライラしている」、2)「授業中、ぼんやりしている」と「授業中、考え事をしてることが多い」、3)「授業中、なぜかイライラしている」と「ノートを取る元気がない」、4)「大学で多くの知識や技術を身につけたい」と「新しいことを学ぶことが好きだ」「大学で学ぶことで、視野を広げたい」や5)「新しいことを学ぶことが好きだ」と「大学で学ぶことで、視野を広げたい」、1)~5)各2項目間で有意な関連を認めた。

また、「悩み事があり、授業に集中できない」とい

う質問に「はい」の回答者19名の調査票を見直したところ、「授業中、ぼんやりしている」および「授業中、考え事をしてることが多い」にも「はい」と回答した者が18名あった(18/19, 94.7%)。

## VI. 考察

本研究は、看護学科4年生の一時点での横断的調査である。さらに、用いた調査票は、大学生の食行動とストレスの調査に用いられたもので、信頼性・妥当性についても十分な検討がなされておらず、本研究でも追加の信頼性・妥当性の検討は含まれていない。これらの点は本報告の本質的な限界である。しかし、同様の先行研究がない、さらに新たな調査票を作成する時

表4-1 「悩み事があり、授業に集中できない」との  $\chi^2$  検定の結果

項目	悩み事があり、授業に集中できない 〔度数(期待度数)〕		$\chi^2$ 値	p値
	はい	いいえ		
授業中、ぼんやり している	はい 18 (15.2)	いいえ 45 (47.8)	3.480	0.062
	いいえ 1 (3.8)	はい 15 (12.2)		
授業中、考え事を していることが多	はい 18 (13.0)	いいえ 36 (41.0)	8.050	<b>0.005</b>
	いいえ 1 (6.0)	はい 24 (19.0)		
授業中、なぜか イライラしている	はい 6 (1.7)	いいえ 1 (5.3)	15.988	<b>0.000</b>
	いいえ 13 (17.3)	はい 59 (54.7)		
ノートを取る 元気がない	はい 6 (4.6)	いいえ 13 (14.4)	0.776	0.384
	いいえ 13 (14.4)	はい 47 (45.6)		

表4-2 「授業中、ぼんやりしている」との  $\chi^2$  検定の結果

項目	授業中、ぼんやりしている 〔度数(期待度数)〕		$\chi^2$ 値	p値
	はい	いいえ		
授業中、考え事を していることが多	はい 47 (43.1)	いいえ 7 (10.9)	5.615	<b>0.018</b>
	いいえ 16 (19.9)	はい 9 (5.1)		
授業中、なぜか イライラしている	はい 7 (5.6)	いいえ 0 (1.4)	1.951	0.163
	いいえ 56 (57.4)	はい 16 (14.6)		
ノートを取る 元気がない	はい 17 (15.2)	いいえ 2 (3.8)	1.465	0.226
	いいえ 46 (47.8)	はい 14 (12.2)		

表4-3 「授業中、考え事をしていることが多い」と  $\chi^2$  検定の結果

項目	授業中、考え事をしていることが多い [度数 (期待度数)]		$\chi^2$ 値	p値
	はい	いいえ		
	授業中、なぜかイライラしている	はい 6 (4.8)		
ノートを取る元気がない	はい 16 (13.0)	いいえ 3 (6.0)		
	はい 48 (49.2)	いいえ 24 (22.8)	1.070	0.301
	はい 38 (41.0)	いいえ 22 (19.0)	2.908	0.088

表4-4 「授業中、なぜかイライラしている」との  $\chi^2$  検定の結果

項目	授業中、なぜかイライラしている [度数 (期待度数)]		$\chi^2$ 値	p値
	はい	いいえ		
	ノートを取る元気がない	はい 5 (1.7)		
	はい 2 (5.3)	いいえ 58 (54.7)	9.438	<b>0.002</b>

表4-5 「大学で多くの知識や技術を身につけたい」との  $\chi^2$  検定の結果

項目	大学で多くの知識や技術を身につけたい [度数 (期待度数)]		$\chi^2$ 値	p値
	はい	いいえ		
	新しいことを学ぶことが好きだ	はい 63 (60.2)		
大学で学ぶことで、視野を広げた	はい 9 (11.8)	いいえ 4 (1.2)		
学業には真面目に取り組んでいる	はい 65 (61.1)	いいえ 2 (5.9)		
	はい 7 (10.9)	いいえ 5 (1.1)	18.857	<b>0.000</b>
	はい 37 (34.6)	いいえ 1 (3.4)	3.649	0.056
	はい 34 (36.4)	いいえ 6 (3.6)		

表4-6 「新しいことを学ぶことが好きだ」との  $\chi^2$  検定の結果

項目	新しいことを学ぶことが好きだ [度数 (期待度数)]		$\chi^2$ 値	p値
	はい	いいえ		
	ノートを取る元気がない	はい 14 (15.9)		
学業には真面目に取り組んでいる	はい 52 (50.1)	いいえ 8 (9.9)		
	はい 31 (31.7)	いいえ 7 (6.3)	0.164	0.685
	はい 34 (33.3)	いいえ 6 (6.7)		
大学で学ぶことで、視野を広げたい	はい 60 (56.0)	いいえ 7 (11.0)	11.581	<b>0.001</b>
	はい 6 (11.0)	いいえ 6 (2.0)		

表4-7 「大学で学ぶことで、視野を広げたい」との  $\chi^2$  検定の結果

項目	大学で学ぶことで、視野を広げたい [度数 (期待度数)]		$\chi^2$ 値	p値
	はい	いいえ		
	ノートを取る元気がない	はい 14 (16.1)		
学業には真面目に取り組んでいる	はい 53 (50.9)	いいえ 7 (9.1)		
	はい 33 (32.2)	いいえ 5 (5.8)	2.404	0.121
	はい 33 (33.8)	いいえ 7 (6.2)	0.282	0.595

間的余裕のないなかでの調査で、学習意欲評価項目の内容から、著者らは本調査票を採用した。回収率は良好で、対象集団の本調査方法での一側面を反映していると考えられた。ストレス度と学習意欲尺度について以下に述べる。

〔集中力・持続力因子〕の多くの項目で「はい」・「いいえ」の判断がストレス度値に反映されていた。学生のストレスを感じることに授業中、落ち着かない、ぼんやりして頭が働かない、すぐ疲れるなど、また、集中力が続かず、集中力が無くなることとの関連が示唆された。

〔自己向上因子〕の結果から、対象者の向上心は高いが、授業に対して積極的になれない状況が考えられたが、今回の結果から結論づけることはできなかった。

〔授業に対する真面目さ因子〕においては、「遅刻・欠席が多い」の項目に関してのみ有意な差が認められ、「はい」回答者群がストレス度の平均値が高かったことから、ストレスと遅刻・欠席の関連が示された。大学生は生活時間に規則がなく、生活リズムのない生活を送りがちであり、身体的・精神的疲労感や規則的な就学時間や通学手段により早朝覚醒を余儀なくされることや、社会的制約や夜間のアルバイトなどによる夜型化なども考慮する必要がある（中村 2004, 竹内ら 2000）。看護大学生においても、一般の大学生と同様に遅い就寝・起床という睡眠習慣を示した報告がある。ストレス反応である抑うつ・不安、怒り、無気力などの陰性感情が、良好な睡眠習慣を妨げ、無気力は特に生活習慣の全般的な乱れと関連が深いことから、ストレスにより睡眠習慣・食習慣を含め生活習慣全般の乱れを招き、その結果学習意欲・態度に影響が及ぶ可能性がある（石川 2005）。

「遅刻・欠席が多い」と他の質問項目：「遅刻・欠席が多い」に対して「いいえ」回答者のうち、「授業中、集中力が続かない」「授業中、あまり頭が働かない」「授業中、ぼんやりしている」「授業中、考え事をしていることが多い」という4項目の質問に対して「はい」回答者が多かった（表3-1~4）。これは、遅刻や欠席の多さが授業中の集中力や持続力、授業態度などとは別の要因の可能性もある。不眠、不十分な睡眠やそれに関した疲労による二次的障害も考えられる（竹内ら 2000）。

「遅刻・欠席が多い」という質問に対して、「いいえ」回答者で、〔自己向上因子〕の項目に中ですべての項目で「はい」回答者が約90%を占めた（表3-2）ことは、対象の良好な特性を反映している可能性があるもののこの結果だけからは判断できなかった。

「悩み事があり、授業に集中できない」という質問

に「はい」の回答者19名の調査票を見直したところ、「授業中、ぼんやりしている」および「授業中、考え事をしていることが多い」にも「はい」と回答した者が18名あった（18/19, 94.7%）ことから、悩み事が原因でぼんやりする場合や、考え事に至る例も少なくない可能性がある。本調査では、対象の学生が抱える悩みや不安に関する情報が不明であるが、他のストレスに関する報告では、学業、進路、就職、友人関係などが挙げられている（金子 2006, 溝口ら 1997）。

なお、本調査票ではストレス状態の客観視と調査票への影響についての自己認識を問う目的で「今のストレス度より高いと感じる時、上記の回答は変わりますか。」という1項目を付加した。〔集中力・持続力因子〕では、ストレス度が高いと感じた時に回答が変化するというものが86.6%を占めたが、有意差なく、これ以上の検討はできていない。

大学での学習に興味・関心をもって、学識を深め、視野を広げようとの回答者が9割近く（表3-2）、向上心が高く、学習に対する姿勢が積極的であることが示唆された。本研究の対象が看護学生であるため、入学時点で、将来の職業像が明確にされている。ほぼ全学生が看護という専門職を目指しており、大学で学ぶ知識や技術が、将来の自分のスキルとなり、知識や技術を希求する学生が多いことは自明である（堀井ら 2008）。

## 謝 辞

本調査に協力された学生各位に深謝します。

なお、この研究は平成21年度卒業研究論文の内容を改変したものである。

## 文 献

- 堀井直子, 三浦清世美, 久米香他 (2008) : 本学看護学生の入学時における学科志望動機—志望動機を反映させた教育を探る—, 中部大学生命健康科学研究所紀要, 4, 11-20
- 市丸訓子, 山本富士江, 野田淳他 (2001) : 看護大学生のストレス度とストレッサー・ストレス反応・影響因子との関連—4年間の縦断的研究—, 東京保健科学学会誌, 4 (2) .77-82
- 1) K 厚生労働省大臣官房統計情報部 (2000) : 平成12年保健福祉動向調査 (心身の健康)  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hftyosa/hftyosa00/index.html> (access 2009年11月24日)
- 石川りみ子, 小林 臻 (2005) : 看護大学生の睡眠習慣と食習慣に関する研究, 沖縄県立看護大学紀要, 6, 1-9
- 梶谷奈生, 尾畑博子, 松本貴子他 (1997) : 大学生のストレ



- スに関する研究 (1), 東洋大学児童相談研究, 16, 25-42
- 金子智栄子, 関根美佳 (2006) : 女子大学生のストレスに関する研究—ストレス反応とストレスラー, コーピングとの関連について—, 文京学院大学人間学部研究紀要, 8 (1), 67-90
- 加曾利岳美 (2008) : 大学生の食行動が学習意欲に及ぼす影響, 心理臨床学研究, 25, 692-702
- 加曾利岳美 (2009) : 大学生の食行動と学習意欲との関連—住居形態と性差による分析—, 共栄大学研究論集, 7, 161-179
- 厚生労働省大臣官房統計情報部 (2002) : 平成 14 年労働者健康状況調査の概況.  
[http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/saigai/anzen/kenkou\\_02/index.html](http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/saigai/anzen/kenkou_02/index.html) (access 2009 年 11 月 24 日)
- 厚生労働省 (2009) : 国民衛生の動向, 厚生指針 2009 (増刊・第 56 巻第 9 号), 76, 財団法人厚生統計協会, 東京
- 溝口満子, 大石杉乃, 竹内佐智恵 (1997) : 看護大学生の実習時における困難な問題とコーピング, 東海大学健康科学紀要, 3, 21-30
- 溝上慎一 (1996) : 大学生の学習意欲, 京都大学高等教育研究, 2, 184-197
- 永嶋由理子 (2002) : 看護学生の学習意欲の比較検討—専門学校・短期大学・大学の看護学生について—, 山口県立大学看護学部紀要, 6, 37-44
- 中村万理子 (2004) : 大学生の心身健康状態と睡眠状況の臨床心理学的研究, 臨床教育心理学研究, 30 (1), 107-122
- 高橋恵子 (2005) : 大学生の生活習慣とストレスに関する心理学的検討, 人間福祉研究, 8, 189-200
- 竹内朋香, 犬上牧, 石原金由他 (2000) : 大学生における睡眠習慣尺度の構成および睡眠パタンの分類, 教育心理学研究, 48 (3), 294-304
- 山田ゆかり (2003) : 大学生におけるストレスとコーピング, 名古屋文理大学紀要, 3, 1-11

## 要 旨

目的：看護大学生の感じているストレスと学習意欲・態度への影響を検討。

対象：看護学科 4 年生 82 名。

方法：学習意欲尺度（加曾利，2008）を含む調査票で検討した。

結果：1) [集中力・持続力因子] の 10 項目中 7 項目で「はい」回答者群のストレス度が有意に高かった。2) [自己向上因子] では、5 項目中 2 項目で「いいえ」回答者群はストレス度が有意に高かった。3) ストレス度による学習意欲の変化は、4 因子すべてにおいて有意差は認められなかった。4) 各因子の項目間では、「遅刻・欠席が多い」ことは [授業に対する積極性因子] 以外の負の 3 因子の項目との関連が示唆された。5) 学習意欲尺度の各項目間では、7 組の項目で遅刻や欠席の少なさとの関係が示唆された。

結論：1) ～5) の結果より、本対象では、[集中力・持続力因子]、[自己向上因子]および[授業に対する真面目さ因子]においてストレスとの関係が示唆された。

キーワード：看護，大学生，学習意欲，ストレス

